



愛知陸協広報

第67号

2026年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号 ハレラニ千代田ビル301

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <https://www.aichi-rk.jp/>

令和7年度を振り返って

専務理事 榊原 茂

いよいよアジア大会、アジアパラ大会が残り5か月余りとなりました。今までとは大きく変貌を遂げた、瑞穂陸上競技場（パロマ瑞穂スタジアム）も検定を終え、大会を迎える体制が整ってきました。これから審判が競技場に慣れ、大会を迎える準備を進める段階に入ります。期間が短い中に、テストイベントとしてのジャパンパラ、日本選手権も行っていきます。愛知の審判技術の見せ所です。オール愛知で頑張っていきましょう。

競技成績としては、国民スポーツ大会（滋賀）は、天皇杯10位、皇后杯5位と女子の活躍がありました。優勝は男子400mハードルの小川大輝選手（東洋大学）のみでしたが、30種目中19種目に入賞し、よく頑張りました。

小学生の全国交流大会が秋開催になり、優勝者はいませんでした。多くの選手が入賞しました。

冬の風物詩である、全国都道府県駅伝の女子は体調不良で、選手の入替わりが多くあり、若いメンバーで臨むことになりました。11位と健闘。男子は7位と7年ぶりに入賞を果たしました。男女共に中学生の活躍が光りました。中でも女子3区の太田葵選手（竜北中2年）は区間1位で、優秀選手に与えられる「未来くん賞」も受賞しました。

例年のように、マラソンも各地で行われ、読売犬山ハーフマラソンに始まり、名古屋ウイメンズマラソン2026、鈴木亜由子杯穂の国豊橋ハーフマラソンで締めくくりました。

特に、名古屋ウイメンズマラソンは愛知・名古屋2026アジア競技大会、ロサンゼルス2028オリンピック競技大会日本代表選手選考競技会MGC出場がかかった大会でもあり、時々強風が吹くなか、優勝は昨年と同じケニアのチェブキルイ選手、2位に積水化学の佐藤早也伽選手が入りました。MGCはさらにダイハツの加世田梨花選手、ダイハツの大森菜月選手、横浜市陸協の信櫻空選手、資生堂の五島莉乃選手、東京メトロの村上愛華選手が権利を獲得しました。

2月15日に神戸で行われた日本選手権ハーフマラソン競歩大会で、昨年に続き愛知製鋼の山西利和選手が世界記録を樹立し優勝しました。さらに、同所属の丸尾知司選手も世界記録でした。

2026年はジャパンパラに始まり、日本選手権、アジア競技大会、アジアパラ競技大会と全国大会、国際大会が続きます。大変ではありますが、この機会に審判意識と技術の向上を図り、陸上競技愛知をさらに高めていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いします。

..... アジア・アジアパラ競技大会まで6カ月

正式名称 第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）
 期 間 2026年9月23日（水）～9月29日（火）
 参加国 アジア45の国と地域
 選手数 約750人
 競技会場 メイン 名古屋市瑞穂公園陸上競技場
 マラソン 名古屋市瑞穂公園陸上競技場（都心コース）
 競歩 愛知県庁・名古屋市役所周辺コース
 練習会場 競走・跳躍 美浜町運動公園陸上競技場
 投てき 知多運動公園陸上競技場



正式名称 第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）
 期 間 2026年10月18日（日）～10月23日（金）
 参加国 アジア45の国と地域
 選手数 約600人
 競技会場 名古屋市瑞穂公園陸上競技場
 練習会場 美浜町運動公園陸上競技場



(伊藤 明久)

専門委員会報告

選手強化委員会

皇后盃第44回女子・天皇盃第31回男子全国都道府県対抗駅伝報告

年末年始の代表者合宿を経て、令和8年1月10日(日)女子駅伝が京都で、翌週18日(日)男子駅伝が広島で開催されました。女子駅伝は選手選考の段階で選手のコンディションなどの理由で、予定通り決まり切らない状況が発生し、例年より区間配置に苦慮することになりました。結局、豊川高校から選ばれていた選手が、全国高校駅伝も1区、2区を走っており、そのまま起用することになりました。高校生にはかなり負担をお願いすることになりました。とはいえ、チームの雰囲気もとてもよく前向きな雰囲気でも本番を迎えました。

コンディショニング的には気温が低く、雪がちらつく状況でのスタートとなりました。1・2区については、谷選手、蒲生選手が社会人に囲まれる中、よく粘りを見せてくれました。そのあとの3区では中学生の太田選手が区間賞の快走を見せてくれました。4・5・6・7区の秋竹選手、杉浦選手、上野選手、市川選手もそれぞれ粘りの走りを見せてくれました。8区では中学生の卜部選手が区間3位の快走を見せてくれ、一時は8位入賞圏内も視野に入りました。9区の磯部選手も自分の力を出し切り力走してくれましたが、有力選手との力の差があり愛知県チームは惜しくも11位で終了しました。今大会の中学生の素晴らしい走りは、来年度に向けて明るい材料となることでしょう。選手の頑張り、各コーチ、選手選考の段階から大会までスタッフの献身的な働きにより無事終えることができました。

愛知県女子チーム結果

総合 11位 2時間20分26秒

区間	氏名	所属	記録	区間順位
1区(6km)	谷 風紗	豊川高校	20分06秒	20位
2区(4km)	蒲生 悠桜	豊川高校	13分09秒	20位
3区(3km)	太田 葵	竜北中学校	9分20秒	1位
4区(4km)	秋竹 凜音	大東文化大学	13分27秒	11位
5区(4.1075km)	杉浦 華夏	岡崎城西高校	13分51秒	12位
6区(4.0875km)	上野 寧々	名城大学	13分34秒	25位
7区(4km)	市川 紗帆	名城大附属高校	13分10秒	13位
8区(3km)	卜部 桃花	天白中学校	10分28秒	3位
9区(10km)	磯部 早良	豊田自動織機	33分21秒	14位



頑張った女子チーム

男子は極寒でのレースであった女子とは対照的な絶好のコンディションでのレースになりました。スタッフの振り返りの中には目標タイムに対して、ほぼ計画通りに走ってくれたことが、入賞の大きな要因であったということがあげられました。男子でも女子同様、2区尾田選手が区間2位、6区の佐藤選手(愛知県区間歴代最高タイム)も区間2位と中学生の大活躍が目を見せました。箱根駅伝を走った青山学院大学の平松選手(愛知県区間歴代最高タイム)の存在も大きかったようです。また、3区の田島選手も区間6位と順位を上げてくれました。男子もとても雰囲気良く、所属、年齢を超えて声を掛け合い、励まし、アドバンスし頑張ってくれました。スタッフも女子同様、きめ細かく丁寧な指導、計画を立て活動してくれました。

愛知県男子チーム結果

総合 2時間18分24秒 第7位 愛知県最高タイム

区間	氏名	所属	記録	区間順位
1区(7km)	大沼 光琉	豊川高校	20分08秒	17位
2区(3km)	尾田 祥太	岡崎南中学校	8分36秒	2位
3区(8.5km)	田島 駿介	日本体育大学	23分57秒	6位
4区(5km)	吉村 竜友健	豊川高校	14分32秒	14位
5区(8.5km)	鈴木 富大	愛知高校	25分07秒	17位
6区(3km)	佐藤 大河	守山中学校	8分35秒★	2位
7区(13km)	平松 享祐	青山学院大学	37分29秒★	10位

★：愛知県の区間歴代最高タイム



7位入賞の男子チーム

男女ともに来年度に向けて飛躍が期待されることでしょう。今後も応援よろしくをお願いします。

(山本 雅司)

年誌資料・広報委員会

「愛知陸協広報」68号編集計画

号数	発行月日	編集内容
68号	令和8年7月31日	<ul style="list-style-type: none"> 表紙 令和8年度を迎えて 会長 専門委員会 総務…役員一覧 競技・施設用器具・審判…連絡事項 広報…69号の予定 マスターズ…県大会等 総務…理事会報告等 特集記事…広報から依頼 競技会報告…3月～6月

(小川 真一郎)

関係団体報告

小学生友の会

日清食品カップ第41回全国小学生陸上競技交流大会が令和7年11月1日(土)～3日(月祝)に2年ぶりに神奈川県横浜市・日産スタジアムで行われました。初めての11月上旬の開催でした。朝夕は肌寒い季節で、監督・コーチ・支援コーチは選手たちの健康管理に細心の注意を払いながら全力でサポートしました。選手は皆、実力を発揮し、秋の横浜で大活躍することができました。中でも男子コンバインドB(走幅跳+ジャベリックボール投)の赤司剛選手(SET project)は総合第2位、女子コンバインドA(80mH+走高跳)の遠矢まひる選手(大須 ACJr)は総合第7位、男子コンバインドAの横田圭亮選手(TSM 岡崎)は総合第8位に入賞するなど、華々しい活躍を見せてくれました。

また、第11回東海小学生陸上競技大会は8月23日(土)に三重県伊勢市にある三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場で開催されました。この大会も愛知県のたくさんの選手が活躍し、躍動する姿を見せてくれました。

アジア大会・アジアパラ大会の地元開催で小学生の陸上競技への関心が高まる中、小学生友の会は今後も愛知県内の小学生陸上の普及・強化を図り、「強い愛知」の継承をしていきたいと考えます。



愛知県選手団



上位入賞の3選手

(大矢 新吾)

(秋山 真一郎)

中小体連

来シーズンへ向けて

○県中学駅伝(11/8 新城総合運動公園陸上競技場)

本年度最後の主催事業となる県中学駅伝では、男子は岡崎市立福岡中学校が初優勝、女子は岡崎市立竜南中学校が

初優勝を飾りました。全国中学校駅伝大会は滋賀県の希望ヶ丘文化公園で行われ、男女それぞれ福岡中学校が19位、竜南中学校が10位と健闘しました。

また、愛知県中学校駅伝大会の開催にあたっては、東三河支部中体連、新城市教育員会、関係各位には絶大なご支援とご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございます。来年度で、新城市総合運動公園での開催が一区切りとなります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

○次年度の大会予定

愛知県は、昨年の沖縄全中から地域クラブの参加が認められ、これまでと異なる形での全中出場となりました。沖縄全中の出場選手数は86名と全国で4番目に多い数でした。

また、県総体に関しては、一昨年より男子は円盤投、女子は円盤投と棒高跳を追加種目としました。これらの種目は、令和9年度の全中より正式種目になる予定です。引き続き各地区の予選会からのご準備をよろしくお願いいたします。2026年度のU16陸上競技大会については、三重県で開催されます。この大会の三重県での開催は最後の年となります。東海中学総体は、岐阜県で開催されます。各方面でのご支援とご協力を賜りながら、選手が日頃の成果を十分発揮できるように実施していきたいと考えております。

○次年度へ向けて

中体連としては、一人でも多くの選手が全国大会へ出場できるように全力でサポートをしていきたいと考えています。昨年は、全国大会での優勝や上位入賞の種目が多数あり、「強い愛知」が戻ってきました。今後も、競技力をさらに向上させるために学校やチームでの指導はもちろんのこと、各地区の練習会や全県を通しての協力体制が不可欠であると考えます。また、今年度は6年ぶりに東海ブロック合宿を開催することができました。再開できたことを大変嬉しく思い、感慨深いものがありました。東海地区のトップ選手が愛知県に集結し、高いレベルでの練習や選手同士の交流、指導者の研鑽を積むことができました。今後も継続して行い、オール東海が一丸となり、選手の育成に励んでいきたいと考えています。

また、部活動が地域展開していく過渡期で、現場も困惑している状況です。過渡期ゆえに様々な歪みが生じてしまっているのも事実です。暑熱対策についても、安心・安全は大前提ですが、競技力向上や競技会運営、選手の気持ち、すべてが大切で何か一つに決めることはできません。私たち指導者は、目の前にいる選手が陸上競技に真剣に取り組める環境を作っていかなければなりません。今後も、選手にとって最良の選択ができるように取り組んでいく所存です。今後とも、中体連をよろしくお願い申し上げます。

高体連

令和7年度を振り返って

高体連行事も3月25日から宮崎県で開催される全国合宿を残すのみとなりました。急遽開催方法が変更になった広島インターハイを始め、日本陸連から出された暑熱対策の運営に右往左往した一年になりました。今後も7月8月の大会運営については考慮をしておかなくてはならず、難しい問題になっています。

パロマ瑞穂スタジアムの改修工事に伴い、県内の大会も含めて東海地区大会を他の3県にお願いして開催をしてきました。2018年に東海総体を開催し、本来2022年が開催年でしたが競技場改修のため、2020年に岐阜県に交代していただきました。ところがコロナ禍により中止になりました。2028年愛知全国総体開催年にリハーサルも兼ねて東海総体を開催します。実に10年ぶりの開催になり高体連としても運営方法について再確認が必要だと思います。全国総体も含めて令和9年度から高体連も大きな大会や合宿が開催される予定です。皆様のご協力をお願いいたします。

令和7年度全国総体は変則的な大会運営の中で、男子やり投、女子4×100mRで全国チャンピオンが誕生しました。男子やり投は実に42年ぶりの優勝でした。女子4×100mRは連覇でした。また、多くの種目で入賞者を出すことができました。選手の皆さんの活躍に敬意を払いたいと思います。また、全国高校駅伝においても男子豊川高校が県勢として久しぶりに8位入賞を果たしました。ここ数年県勢は上位入賞を逃していましたので、復活の狼煙を上げていただけました。男女とも今後の活躍を大いに期待したいと思います。

今後の全国総体の運営は暑熱対策等から大きな変更になっていくかもしれません。令和10年度には45年ぶりに愛知県で全国総体が開催されます。地元開催で前回は4種目で全国チャンピオンが生まれています。現在よりも種目数が少ない中での4種目ですので当時は大いに盛り上がったと聞いています。3年後には前回大会を上回るチャンピオンが誕生することを期待しています。そのために高体連としても強化委員会と連携して、選手の発掘・強化を担っていきたくと思っています。皆さんで陸上競技を盛り上げていきたくと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

(石井 哲郎)

学連

トラック & フィールド 2025 シーズン総括

東京世界陸上、World University Games (WUG、ドイツ) の開催年となった2025年シーズンは、代表選考や出場国の事前キャンプなどを理由に例年よりも変則的な競技会スケジュールとなった。

第91回を迎えた東海ICは、開催時期および会場確保に苦慮した結果、例年よりも約1ヶ月早い4月に静岡(小笠山)にて開催した。開催歴を紐解くと、静岡県内での東海ICは43年ぶりとのこと。エコパで知られる小笠山総合運動公園のような大規模スタジアムでの開催は、施設内の諸室や付帯設備などの使用方法や動線確保の配慮が必要となるため、競技会運営に携わった学生役員にとって貴重

な経験となった。出場した選手たちにとっても、ウォーミングアップから招集、競技エリアでの過ごし方など戦略的発想が要されたであろう。大会結果は、男女ともに中京大学が総合優勝(男子67回目、女子61回目)をおさめた。シーズン序盤の対校戦ではあったが2つの大会記録が更新された(表)。

WUGの代表選考会となった日本学生個人選手権(平塚)では、女子800mで優勝した森千莉(至学館大)選手を筆頭に長距離種目や競歩種目で上位入賞、フィールド種目でも多くの東海地区の選手がトップ8に入る活躍があった(表)。なお、本大会の結果をもって、名城大学の細見芽生選手と橋本和叶選手がWUG日本代表選手として選出された。また、名城大の米田勝朗監督は、日本代表チームの監督として派遣された。

例年9月開催の日本ICは、世界陸上の会期と重なったため6月開催となり、学生にとって主要な競技会が上半期に占めるシーズンとなった。大会は、個人選手権に続き森選手が800mで優勝、1500mでも6位に入賞した。WUG代表の細見選手は10000mで2位に入り、翌月に控えたドイツで開催される本大会での活躍が期待された。

第57回全日本大学駅伝東海地区選考会(岡崎)は16チームがエントリーした。東海地区に与えられた本戦出場への2枠が争われ、1位の名古屋大学が2年ぶり17回目、2位の岐阜協立大学が4年ぶり5回目の本戦への出場権を獲得した(表)。11月2日(熱田～伊勢)の本大会では、名古屋大が20位、岐阜協立大は21位となり、残念ながら2026年大会の東海地区の出場枠は1枠減になった。

7月にドイツにて開催されたWUGでは、女子10000mで細見選手が4位、橋本選手は19位という結果をおさめた。まだ1年生ということもあり、2年後の韓国大会での活躍も期待される。

久しぶりの秋開催となった西日本IC(京都)は、男子においてはトラック得点1位、フィールド得点2位、混成得点1位と上位を占めた中京大が総合優勝した。女子では、トラック得点5位、フィールド得点3位、混成得点1位の中京大が総合5位となった。

第43回全日本大学女子駅伝東海地区選考会(岡崎)は、2チームのみエントリーとなり寂しい選考レースとなったが、中京学院大学が2位の日本福祉大学と16秒の僅差で7年連続7回目の代表権を獲得した。仙台を舞台に行われた本戦(10/26)では、名城大が3位、中京学院大は22位という結果であった。

東海学連の対校戦としてシーズンを締めくくると東海学生駅伝は、年々一般道を使ったロードレースの実施は容易ではなくなっているものの、2024年大会に引き続き美浜町関係者の協力を得て、前回大会から若干距離を変更したコースで開催することができた。

2025全日本大学女子選抜駅伝(富士宮)では、名城大が4位に入り10月の全日本に引き続き上位入賞を遂げた。2017～2023年まで全日本7連覇や富士山駅伝6年連続優勝の実績から、どうしても過剰に期待される声もあるが、常に選手が入れ替わるカレッジスポーツの難しさにも対応しながらトップレベルの競技力を維持するチームである。

2026年シーズンは、改修を終える瑞穂陸上競技場の再利用率に加えて、9月に開催されるアジア競技大会の代表選考に少しでも絡む東海地区の学生アスリートの活躍を期待している。

表1:2025年シーズン大学対校戦の対校順位、上位入賞者

第91回東海学生対校 04.18-04.20 (静岡)

■女子総合
1位 中京大 2位 至学館大 3位 日本福祉大

■男子総合
1位 中京大 2位 岐阜協立大 3位 至学館大

■大会新記録
男子100m 山田 晃祐 (中京大) 10.30
女子4×100mR 中京大 45.66
(前田 紗希、蟹江璃彩子、福本 萌奈、森下 愛梨)

2025 日本学生個人選手権 04.25-04.27 (平塚)

■女子

800m	森 千莉 (至学館大)	1位
5000m	瀬木 彩花 (名城大)	5位
10000m	細見 芽生 (名城大)	2位
	橋本 和叶 (名城大)	3位
10000mW	山岸 芽生 (中京大)	3位
	山田 佳花 (中京大)	5位
	大賀 羽和 (中京大)	6位
	川邊のぞみ (名古屋大)	8位
棒高跳	須崎 心優 (中京大)	4位
ハンマー投	中嶋日向子 (中京大)	5位
やり投	櫻井 希美 (中京大)	6位
七種競技	金子 美月 (中京大)	3位
	谷 青夏 (中京大)	5位

■男子

200m	横山 大空 (中京大)	2位
800m	水野 瑛人 (中京大)	2位
走高跳	本田 基偉 (岐阜大)	4位
棒高跳	谷口 海斗 (中京大)	8位
三段跳	神谷 海成 (東海学園大)	4位
	西ヶ谷 奏汰 (岐阜協立大)	8位
ハンマー投	山川 滉心 (中京大)	3位
	小島 諒太 (中京大)	4位
	吉岡 暉人 (岐阜協立大)	7位
やり投	花田 李樹 (中京大)	7位
十種競技	梶川 新 (中京大)	3位

第57回全日本大学駅伝東海地区選考会 06.21 (岡崎)

1位	名古屋大学	2位	岐阜協立大学	3位	皇學館大学
4位	愛知工業大	5位	中京大	6位	三重大学
7位	静岡大学	8位	至学館大学		

※名古屋大と岐阜協立大が本戦出場

天皇賜盃第94回日本学生対校 06.05-06.08 (岡山)

■女子

800m	森 千莉 (至学館大)	1位
1500m	森 千莉 (至学館大)	6位
5000m	石松愛朱加 (名城大)	6位
10000m	細見 芽生 (名城大)	2位
	石松愛朱加 (名城大)	5位
棒高跳	須崎 心優 (中京大)	7位
ハンマー投	中嶋日向子 (中京大)	4位
やり投	櫻井 希美 (中京大)	5位
七種競技	片野坂唯月 (中京大)	4位
	谷 青夏 (中京大)	6位
	金子 美月 (中京大)	7位

混成競技の部 中京大 2位

■男子

200m	横山 大空 (中京大)	3位
800m	水野 瑛人 (中京大)	7位
走高跳	岡松 大那 (中京大)	3位
	本田 基偉 (岐阜大)	4位
ハンマー投	山川 滉心 (中京大)	3位
やり投	竹村 蒼汰 (中京大)	2位
	西田 龍司 (中京大)	4位
	花田 李樹 (中京大)	5位
	藤原 理希 (岐阜協立大)	6位
十種競技	谷崎 光 (中京大)	7位

フィールドの部 中京大 2位

第43回全日本大学女子駅伝東海地区選考会 09.23 (岡崎)

1位	中京学院大学	2位	日本福祉大学
----	--------	----	--------

※中京学院大が地区代表として本戦出場

秩父宮賜杯第78回西日本学生対校 09.12-09.14 (京都)

※愛知陸協所属のみ

■女子

100m	森下 愛梨 (中京大)	4位
800m	北村 はる (中京大)	8位
5000m	山本 滝穂 (至学館大)	1位
400mH	和佐田真広 (中京大)	4位
10000mW	後藤 美咲 (至学館大)	6位
	寺本 瑛美 (名古屋大)	7位
走高跳	小島 優 (至学館大)	6位
棒高跳	須崎 心優 (中京大)	3位
三段跳	田中 千尋 (至学館大)	7位
円盤投	安藤瑞七海 (中京大)	6位
ハンマー投	中嶋日向子 (中京大)	3位
やり投	成田 沙穂 (中京大)	3位

■男子

100m	尾澤 侑真 (中京大)	4位
	生田 幸長 (岐阜協立大)	5位
	藤野 晃志 (名古屋大)	8位
200m	尾澤 侑真 (中京大)	4位
400m	盛 耕太朗 (東海学園大)	3位
800m	盛 耕太朗 (東海学園大)	2位
1500m	水野 瑛人 (中京大)	3位
3000mSC	本多 秋詩 (中京大)	2位
	宮崎 颯来 (愛知工業大)	3位
10000mW	鈴木 智大 (名古屋大)	4位
走高跳	岡松 大那 (中京大)	1位
棒高跳	谷口 海斗 (中京大)	3位
三段跳	神谷 海成 (東海学園大)	5位
	加藤 隼輝 (中京大)	8位
砲丸投	兵藤 拓郎 (岐阜協立大)	4位
円盤投	岩瀬 一輝 (中京大)	4位
	松田 流輝 (中京大)	6位
ハンマー投	小島 諒大 (中京大)	7位

第87回東海学生駅伝 / 第19回東海学生女子駅伝 12.14 (美浜町)

■男子
1位 皇學館大学 2位 岐阜協立大学 3位 愛知工業大学

■女子
1位 名城大学 2位 日本福祉大学 3位 中京学院大学

(黒須 雅弘)

実業団

2025年度 シーズン後半の報告

11月22日に開催されました八王子ロングディスタンスに於いて、トヨタ自動車の鈴木芽吹選手が10000mで27分05秒92をマークし、日本記録を樹立しました。鈴木芽吹選手は4月の日本選手権10000mで優勝し、世界選手権東京大会の日本代表として10000mにも出場しました。

11月23日に開催されました全日本実業団対抗女子駅伝(通称:クイーンズ駅伝)には豊田自動織機が出場しました。1区の逸見選手が区間3位と好スタートを切り、5区終了時点ではシード権獲得圏内の8位でレースを進めていましたが、最終6区で順位を落とし、11位でのゴールとなり惜しくもシード権獲得とはなりませんでした。しかしながら2024年度の25位から大きく順位を上げ、来年度に繋がる、復活を印象付ける走りとなりました。

12月2日に開催されました福岡国際マラソンでは、トヨタ自動車の西山雄介選手が2位(日本人1位)、同日開催の防府読売マラソンでは同じくトヨタ自動車の西山和弥選手が2位(日本人1位)、トーエネックの小山裕太選手が4位(日本人2位)となり、3名の選手が2028年ロサンゼルスオリンピック代表選考レース(2027年開催)、マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)の出場権を獲得しました。

年が明け1月1日には男子の全日本実業団対抗駅伝(通称ニューイヤー駅伝)が開催されました。2年ぶりの優勝

を目指すトヨタ自動車は、序盤は流れを掴めず苦しいレース展開に。そこから4区のキバティ選手が区間3位、5区の湯浅選手が区間2位と徐々に順位を上げましたが、序盤の出遅れを最後まで挽回することが出来ず、悔しい3位でのゴールとなりました。4年続けて3位以内と底力を発揮し、表彰台は確保する結果となりました。

2026年度には地元愛知県で日本選手権やアジア競技会が開催されます。県内の実業団選手が活躍し、多数の選手が日本代表として活躍することを期待したいと思います。



10000mで日本記録を樹立した鈴木芽吹選手（トヨタ自動車）
今年開催のアジア競技会でも日本代表を目指す。

(トヨタ自動車陸上長距離部 辻 大和)

OB・OG会

●國分一郎氏ご逝去に際して

愛知陸協OB・OG会は、1999年（平成11年）、当時会長であった故・高橋公一氏のもと、國分一郎氏ら世話人により設立されました。会員相互の親睦を深め、陸上競技の発展に寄与することを目的として活動を続けております。このたび、長年にわたり世話人代表として運営にご尽力いただいた國分一郎氏が、2025年11月15日にご逝去されました。数か月前の7月16日、名古屋ガーデンパレスで開催された総会では、皆様と和やかに会食・懇談を楽しまれたことが、今となっては大切な思い出となっております。

会員一同、謹んで哀悼の意を表すとともに、本会の目的を改めて確認し、今後も進めてまいります。



左から、会食中の元会長・稲垣隆司様、國分一郎様、青木実様、外山幸男様



2025年度愛知陸協OB・OG会総会（名古屋ガーデンパレス）

●2025年度秋の行事報告

本年度の年次計画に基づき、11月12日には東三河地区世話人の担当で「秋の行事」を実施しました。

・豊川稲荷参拝

ガイドの案内で境内を巡り、歴史を感じながら心静かに手を合わせました。

・蒲郡・ホテル竹島で昼食懇親会

競技場では審判業務に追われゆっくり話す機会の少ない仲間と、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

・竹島水族館見学

リニューアルされた展示に笑顔があふれ、楽しいひとときを過ごしました。

今回の行事を通じて、改めてOB・OG会のつながりの温かさを感じることができました。今後もこのような機会を大切に、より一層の交流を深めてまいります。

●入会のご案内

愛知陸協OB・OG会では、会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。入会希望の方は、愛知陸協事務所までご連絡ください。



秋の行事・「円福山 豊川閣 妙巖寺（豊川稲荷）」境内で

(水野 久)

競技会報告

第43回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

2025年10月26日(日)

引進ゴムアスリートパーク仙台6区間38.0km

3 名城 2.03.50

(細見 芽生・大河原萌花・米澤奈々香・石松愛朱加
橋本 和叶・村岡 美玖)

日清食品カップ第41回全国小学生陸上競技交流大会

2025年11月2日(日)日産スタジアム

種目	順位	氏名	所属	記録
男子コンバインドA	8	横田 圭亮	TSM 岡崎	2297
男子コンバインドB	2	赤司 剛	SET project	2514
女子コンバインドA	7	遠矢まひる	大須 AC.Jr	2221

令和7年度愛知県高等学校駅伝競走大会

2025年11月3日(月)一宮市大野極楽寺公園・木曾川沿川サイクリングコース

順位	男子7区間	42.195km	女子5区間	21.0975km
1	豊川	2.06.23	豊川	1.12.26
2	豊田大谷	2.08.47	人環大岡崎	1.14.03
3	愛知	2.09.27	愛知	1.14.58
4	名経大高蔵	2.10.07	中京大中京	1.15.37
5	中京大中京	2.11.08	安城学園	1.16.56
6	豊橋南	2.14.06	岡崎城西	1.18.03
7	中部大第一	2.14.10	光ヶ丘女子	1.20.19
8	岡崎城西	2.14.53	瑞陵	1.22.52

第74回愛知県中学校駅伝大会

2025年11月8日(土)新城総合公園陸上競技場周回コース

順位	男子6区間	18.05km	女子5区間	12.65km
1	福岡	58.22	竜南	43.33
2	雁が音	58.28	豊川西部	43.49
3	大口	59.15	刈谷南	44.49
4	田原東部	59.26	阿久比	44.59
5	豊川東部	59.45	鳳来	45.22
6	豊橋東部	59.50	雁が音	45.29
7	岡崎南	59.52	古知野	45.31
8	西尾	59.53	矢作北	45.57



県中学駅伝女子スタート

第65回中部実業団対抗駅伝競走大会

2025年11月9日(日)

はなとき通り～はなとき通り 7区間 80.5km

- トヨタ紡織 A 3.54.00
(服部 大暉・マルイマニエル・浅井 皓貴・西澤 侑真
藤曲 寛人・間谷 賢人・羽生 拓矢)
- トヨタ自動車 A 3.54.57
- 愛三工業 3.56.12
- 愛知製鋼 3.57.33
- 中央発條 3.57.40
- トーエネック 4.00.35

第25回世界デフリンピック

2025年11月15日(土)～26日(水)駒沢総合公園運動場・犬井埠頭中央海浜公園

順位	種目	氏名	所属	記録
優勝	円盤投	湯上 剛輝	トヨタ自動車	58.93 大会新
3	ハンマー投	石田 考正	EY Japan(東京)	55.51
6	砲丸投	境橋 眞優	豊田自動織機	12.80
6	女子4×400mR	中村 美月	フジミンコーポレートッド	4.10.54
8	やり投	古川江里菜	豊田自動織機	41.34



デフリンピック優勝湯上選手

八王子ロングディスタンス

2025年11月22日(土)上柚木公園陸上競技場

10000m (NNR: 日本新記録)

順位	氏名	所属	記録
6	鈴木 芽吹	トヨタ自動車	27.05.92 NNR

鈴木 芽吹 選手(トヨタ自動車)が、見事『27分05秒92』という日本新記録を樹立いたしました。

第45回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会

2025年11月23日(日) 6区間 42.195km

松島町文化観光交流館前→引進ゴムアスリートパーク仙台(宮城コース)

- 豊田自動織機 2.17.24
(逸見 亜優・川西 みち・岡本 春美・エカラルヘレン
磯部 早良・新名 春風)

女子第36回・男子第74回東海高等学校駅伝競走大会
2025年11月23日(日)松坂市三重高校発着駅伝コース

順位	男子 7 区間	42.195km	順位	女子 5 区間	21.0975km
1	豊川	2.07.38	1	豊川	1.10.33
2	愛知	2.07.47	5	愛知	1.12.56
3	豊田大谷	2.09.16	6	人環大岡崎	1.12.58
			8	中京大中京	1.13.16

男子 区間賞

区間	氏名	所属	記録
2区(3.0km)	中島 康喜	豊田大谷	9.18
4区(8.097km)	鈴木 富大	愛知	24.52
5区(3.0km)	田島 侑樹	豊川	8.00
7区(5.0km)	大沼 光琉	豊川	14.35

女子 区間賞

区間	氏名	所属	記録
1区(6.0km)	谷 風紗	豊川	19.42
4区(3.0km)	佐藤優乃花	豊川	9.43
5区(5.0km)	隅田 美月	豊川	17.00

高校男子の部 4 区間 13.4km

順位	所属	記録
1	愛知黎明 B	40.02
2	愛産大三河 A	40.03
3	一宮 A	40.10

高校女子の部 4 区間 9.2km

順位	所属	記録
1	天白	31.18
2	聖霊 A	33.20
3	大府東	35.12

一般男子の部 4 区間 13.4km

順位	所属	記録
1	I.A.R.C名古屋	39.38

市民ランナーの部 4 区間 9.2km

順位	所属	記録
1	岡崎城西 AC	27.13
2	オレンジ RC + T	27.17
3	作手いいらあ〜	29.00

男子第87回・女子第19回東海学生駅伝対校選手権大会
2025年12月14日(日)美浜町運動公園陸上競技場発着

順位	男子 6 区間	49.6km	順位	女子 5 区間	19.9km
3	愛知工業	2.35.06	1	名城	1.09.25
4	名古屋	2.35.30	2	日本福祉	1.12.03
5	中京	2.38.03	5	至学館	1.17.28
8	愛知	2.44.54	8	中京	1.19.23

名城大は 19 連覇

第18回愛知県市町村対抗駅伝競走大会
2025年12月6日(土)愛・地球博記念公園内

順位	市の部		町村の部	
1	岡崎市	1.35.39	阿久比町	1.42.40
2	名古屋市	1.37.22	幸田町	1.44.51
3	豊橋市	1.38.18	東浦町	1.45.41
4	刈谷市	1.38.52	美浜町	1.46.56
5	豊田市	1.39.36	蟹江町	1.47.54
6	春日井市	1.39.41	東郷町	1.48.50
7	豊川市	1.40.14	大口町	1.49.34
8	田原市	1.40.38	大治町	1.50.12

岡崎市は 4 連覇

阿久比町も 4 連覇

福岡国際マラソン2025

2025年12月7日(日)福岡国際マラソンコース

順位	氏名	所属	記録
2	西山 雄介	トヨタ自動車	2.07.56

第33回全国中学校駅伝大会

2025年12月14日(日)

滋賀県希望が丘文化公園スポーツゾーン芝生ランド

女子 5 区間 12.0km

10 竜南 43.53

(早川 真優・安藤 美遥・安藤 美琴・羽根 侑杏
佐野伊桜里)

区間賞

区間	氏名	所属	記録
3区(2.0km)	安藤 美琴	竜南	7.03

男子 6 区間 18.0km

19 福岡 59.35

(坂井 俊太・江口 斗真・吉見 亮祐・内田 悠陽
藤井 恵人・羽根 虎伯)

区間賞

区間	氏名	所属	記録
1区(3.0km)	坂井 俊太	福岡	9.13

2025年愛知陸協駅伝競走大会

2025年12月7日(日)ウェーブスタジアム刈谷発着駅伝コース

中学女子の部 4 区間 9.2km

順位	所属	記録
1	刈谷 AC	30.50
2	矢作北 A	31.02
3	TSMB	31.07

中学男子の部 4 区間 9.2km

順位	所属	記録
1	RunupAcademy	25.59
2	チーム大口 A	27.00
3	雁が音 A	27.05

女子第37回・男子第76回全国高等学校駅伝競走大会
2025年12月21日(日)たけびしスタジアム京都付設駅伝コース

女子

20 豊川 1.10.24

(谷 風紗・浦生 悠桜・佐藤優乃花・浦山 美咲
隅田 美月)

男子

8 豊川 2.03.36
(大沼 光琉・森田 陽翔・吉村竜友健・伊藤 颯太
中川 拓海・嶋岡 希・永嶋 峻樹)

44 愛知 2.07.45
(鈴木 富大・水野 悠希・稲垣 諒也・大原 慶太
生駒 蓮・水谷 健悟・大堀 優雅)

2025全日本大学女子選抜駅伝競走

2025年12月30日(火)

富士山本宮浅間大社鳥居前～富士総合運動公園陸上競技場

4 名城 2.24.34
(金森詩絵菜・大河原萌花・石松愛朱加・米澤奈々香
細見 芽生・山田 未唯・橋本 和叶)

第70回全日本実業団対抗駅伝競走大会

2026年1月1日(木)群馬県庁発着7区間100km

3 トヨタ自動車 4.47.12
(吉居 大和・鈴木 芽吹・田澤 廉
サムエル キバティ・湯浅 仁・田中 秀幸・服部 勇馬)

14 トヨタ紡織 4.49.32 34 トーエネック 4.56.35
18 愛知製鋼 4.51.44 37 中央発條 4.57.28
24 愛三工業 4.52.59

第37回全日本びわ湖クロスカントリー大会

2026年2月1日(日)滋賀県希望が丘文化公園クロスカントリーコース

男子 8km

順位	氏名	所属	記録
6	加藤 晨	愛知工業大学	26.25
7	渥美 希良	愛知工業大学	26.42
8	横田 弥海	愛知工業大学	26.51

U-20 男子 5km

順位	氏名	所属	記録
8	丹家 琉翔	中京大中京高校	16.09

U-20 女子 4km

順位	氏名	所属	記録
5	児玉 彩花	光ヶ丘女子高校	14.12

第11回全国U17/U16/U15クロスカントリー大会

2026年2月1日(日)滋賀県希望が丘文化公園クロスカントリーコース

U17 男子 3km

順位	氏名	所属	記録
1	尾田 祥太	岡崎市立南中	9.10
4	坂井 俊太	岡崎市立福岡中	9.14
6	佐藤 大河	名古屋市立守山中	9.15

U15 男子 1.5km

順位	氏名	所属	記録
7	小田 雄太	名古屋市立守山西中	4.33
8	浅井 進作	名古屋市立守山中	4.34

U17 女子 2km

順位	氏名	所属	記録
4	熊本みくる	豊川市立西部中	6.52
5	近藤紗弥	豊川市立西部中	7.04

U16 女子 2km

順位	氏名	所属	記録
7	河村 飛香	SET PROJECT	6.55

U15 女子 1.5km

順位	氏名	所属	記録
4	堤田 葵心	ループエイト	5.04

小学6年男子 1km

順位	氏名	所属	記録
6	藤森 大翔	SET PROJECT	3.16

小学5年男子 1km

順位	氏名	所属	記録
3	鈴木丈太郎	ループエイト	3.25
7	北村 晋一	TSM	3.29

小学4年男子 1km

順位	氏名	所属	記録
1	西山 聖真	TSM 岡崎小学	3.44

小学6年女子

順位	氏名	所属	記録
3	楓 汐莉	岡崎市立矢作南小	3.22
5	河村 翼紗	SET PROJECT	3.28

小学5年女子 1km

順位	氏名	所属	記録
7	伴 百々花	Brushup	3.48

小学4年女子 1km

順位	氏名	所属	記録
8	岩塚 佳波	TSM	3.59

日本選手権ハーフマラソン競歩

2026年2月15日(日)六甲アイランド甲南大学周辺コース

順位	氏名	所属	記録
1	山西 利和	愛知製鋼	1.20.34
4	丸尾 知司	愛知製鋼	1.21.25

山西・丸尾選手 世界記録

世界陸連の変更を受け、今大会から21.0975キロで行われた、世界記録の認定基準として設定されたタイム(1時間21分30秒)を突破し、世界記録となった。



優勝の山西選手と4位の丸尾選手



世界記録を表示したタイマーを指さす山西選手

(写真提供：愛知製鋼株式会社)

第109回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走
2026年2月21日(土) 国営海の中道海浜公園

シニア男子 10km

順位	氏名	所属	記録
2	西澤 侑真	トヨタ紡織	29.24

第15回愛知競歩競技会
2026年2月21日(土) 名古屋市三の丸官公庁コース

ハーフマラソン競歩 男子

順位	氏名	所属	記録
3	前原 凌	至学館大	1.44.49

ハーフマラソン競歩 女子

順位	氏名	所属	記録
1	柴田 葵	愛知陸協	2.06.02

一般男子 5km 競歩

順位	氏名	所属	記録
1	鈴木 智大	名古屋大	20.04
3	永山 大志	至学館大	21.08

高校男子 5km 競歩

順位	氏名	所属	記録
1	野田 京汰	旭野	20.39
2	佐野 颯	天白	20.44

中学男子 5km 競歩

順位	氏名	所属	記録
1	金森 優斗	弥富	29.20

一般女子 5km 競歩

順位	氏名	所属	記録
2	山田 佳花	中京大	24.13
3	後藤 美咲	至学館大	24.16

高校女子 5km 競歩

順位	氏名	所属	記録
1	河村 凜	旭丘	24.14
2	浅尾 ゆき	天白	25.13
3	白木 里佳	愛知黎明	26.01

第45回読売犬山ハーフマラソン
2026年2月22日(日) 公認犬山ハーフマラソンコース

ハーフマラソン 男子 (NGR：大会記録)

順位	氏名	所属	記録
1	石川 龍芽	中央発條	1.02.40 NGR
2	藤井 寛之	愛三工業	1.02.46 NGR
4	平松 龍青	専修大	1.02.58 NGR
6	大森 駿斗	中央発條	1.04.16
8	穴澤 友崇	中央発條	1.04.54

ハーフマラソン 女子

順位	氏名	所属	記録
1	鹿内 弥生	愛知電機	1.15.50
2	吉村 唯	愛知電機	1.16.14
3	平山 璃奈	愛知電機	1.20.33
4	坂川真由美	AC一宮	1.21.21
5	横山友里乃	ランコレ	1.22.03
7	竹内 香織	トヨタSC	1.23.18
8	富田 光江	富士松AC	1.23.23

10km 男子

順位	氏名	所属	記録
5	足立 誠	CROSSOVER	32.59
6	奥野 英二	富士松AC	33.28
7	近藤 勇	愛知マスターズ	33.53
8	平松 誠之	Rebirth	34.04

10km 女子

順位	氏名	所属	記録
2	白井かすみ	愛知電機	35.47
4	磯谷 由衣	中馬塾	39.25
6	山田しおり	ランコレ	41.09
7	中村 心優	西陵高	44.32
8	多和田 葵	若宮AC	48.32

名古屋ウィメンズマラソン2026
2026年3月8日(日) 名古屋ウィメンズマラソンコース

朝から風の強い天候ではありましたが、晴天のマラソン日和に恵まれ、2026 アジア競技大会の選手選考、そして、ロサンゼルス2028オリンピック競技大会の日本代表選手選考競技会(MGC)の選手選考を兼ねた名古屋ウィメンズマラソン2026が実施された。マラソンの部には17,101名が出走、完走率は96.6%であった。



スタート 30 秒前

順位	氏名	所属	記録
1	シェイ・チェブキルイ	ケニア	2.21.54
2	佐藤早也伽	積水化学	2.21.56 MGC
3	アイナレム・DESTA	エチオピア	2.22.37
4	加世田梨花	ダイハツ	2.22.53 MGC
5	大森 菜月	ダイハツ	2.23.45 MGC
6	信櫻 空	横浜市陸協	2.24.34 MGC
7	五島 莉乃	資生堂	2.24.44 MGC
8	ジュネビエ・グダソン	オーストラリア	2.25.06
9	村上 愛華	東京メトロ	2.25.07 MGC

同時に行われた愛知県選手権の結果

順位	氏名	所属	記録
1	三池 瑠衣	JR 東海	2.49.08
2	坂川真由美	AC 一宮	2.52.27
3	富田 光江	富士松 AC	2.53.29



笑顔の表彰式

ことはできなかったと思います。中学校という限られた部活動の時間の中で、基礎体力を身につけながら、記録向上を目指す練習メニューやご指導をしていただき、これまで多くの選手を大きな大会へと導いてきた陸上指導のプロフェッショナルに出会えたことは、私にとって大きな財産です。ここまで支えてくださった先生方の丁寧なご指導と、共に練習してきた仲間からの励ましの言葉や声援があったからこそ、今の自分があります。この感謝の気持ちを、これからの競技人生で結果として返していきたいと思っています。



U16大会で後藤先生と

(名古屋市立守山東中学校 祖父江 由佳)

名古屋大谷高校投擲ブロック

名古屋大谷高校陸上部は今年度で44年連続、全国高校総体に出場しています。陸上部は『あたりまえのことを当たり前前に』をモットーに練習だけでなく、人としてどうあるべきか、思いやりを持つことの大切さを学んでいます。投擲ブロックは現在10名で活動し、日々厳しい練習に取り組んでいます。しかし、本校の練習環境は恵まれているとはいえません。平日は週二回、90分間の投てき練習、週二回のウェイトトレーニング、それ以外は敷地の隅で跳んだり補強したりの日々です。その中で選手はしっかり結果を出してくれています。中学時代は結果が残せていない選手もたくさんいます。そういった意味では伸びしろの大きい投擲ブロックといえるかもしれません。毎年、全国大会で入賞してくれています。今年度は全国高校総体に6名が出場。男子やり投で優勝、女子ハンマー投で準優勝、U18では男子やり投優勝、男子円盤投で優勝という成績を残してくれました。これからも、選手として人として成長していきますので、応援よろしくお願いします。



勢ぞろいした投擲ブロック

(名古屋大谷高校陸上競技部監督 山本 雅司)

特集記事

自己ベストへの挑戦

三段跳で日本中学新記録(12m51)を出すことができたときを思い出すと、正直なところ「信じられない」という気持ちが一番でした。踏み切った感覚、空中での姿勢、着地の砂まで、すべてが一瞬で過ぎ去り、記録が表示された時によりやく実感がわきました。これまで積み重ねた努力が形になったことが、何よりうれしかったです。

中学の部活動を振り返ると、楽しいことばかりではなく、思うように記録が伸びずに悩んだ時期もありました。それでも「続けること」を大切に、毎日の練習に向き合ってきました。小さな成長を一つ一つ積み重ねてきたことが、走幅跳での全国大会出場や、三段跳の記録更新につながったのだと思います。

今、部活動や県の強化練習会で頑張っていることは、基本を大切にすることです。助走のリズムや踏み切りの正確さ、体づくりなど、一見地味に見える練習も手を抜かずに取り組んでいます。高校進学後は、三段跳の日本高校新記録と全国大会で結果を残すことを目標にしています。また、競技だけでなく、人としても成長し、困難に負けない強い心を身につけたいです。

最後になりますが、陸上部顧問の浅野達也先生と外部顧問の後藤史章先生、そして部活の仲間なしでは記録を残す

自分の可能性を信じ、挑戦し続ける

私は中学校・高校を通じて、特に目立った成績を残してきた選手ではありません。他の選手と比較しても、決してエリートとは言えない存在です。身長165cmという体格も、走高跳選手として恵まれているとは言えません。しかし、自身の強みであるスピード感のある助走、バネを弾くような力強い踏み切り、そして身体の軽さを活かしたしなやかな跳躍を武器に、これまで競技に取り組んできました。

大学2年時には日本インカレにて、自身初となる全国タイトルを獲得しました。続く3年目には自己ベストを3cm更新し、初出場となった日本選手権で4位入賞を果たしました。結果だけを見ると、大学生アスリートとして順風満帆に見えるかもしれませんが、しかし、2025年シーズンを終えて真っ先に思い浮かんだ感情は、「悔しい」というものでした。負けず嫌いな性格である私にとって、悔しさを抱くこと自体は不思議なことではありません。ただ、このままではシニアの舞台、そして世界の舞台で活躍することはできないと、強く痛感させられた1年でした。振り返ると、現状に固執し、良い時も悪い時も一喜一憂しすぎているのではないかと感じています。

執筆現在は冬季練習期間ですが、これらの反省を踏まえ、練習への向き合い方を見直しています。その中でできたことについては「なぜ良かったのか」を考え、次の練習でも再現できるようにしています。一方で、できなかったことに対しては、次の練習までにできるようにしています。自分の可能性を信じ、失敗を恐れることなく、常に挑戦し続けること。これだけは忘れずにいたいです。

私の可能性を信じ指導して下さるコーチ、家族をはじめ応援して下さる多くの方々に恩返しができるよう、私はこれからも跳び続けていきます。

そして2026年には、地元・愛知県でアジア大会が開催されます。日の丸を背負い戦いたいという気持ちは誰にも負けないです。自分らしく、常に笑顔で挑み続けます。

今後とも、応援をよろしくお願いいたします。



自己ベストを出した日本インカレ

(早稲田大学 矢野 夏希)

さらなる成長に向けて

私の2025年シーズンは、陸上競技人生において大きな転換点となりました。一つ一つのレースで確かな成長を感じられ、充実したシーズンを送ることができました。特に印象深かったのは、愛知県選手権800mで県新記録、大会記録、そして自己新記録を一度に更新できたレースです。大学進学後は、タイムが伸び悩み、思うような走りができない時期が続いていましたが、3年目のシーズンでようやく壁を破ることができました。大学陸上生活の中で、これほど嬉しかった瞬間はありませんでした。

2026年シーズンは、この結果に満足することなく、さらに飛躍する一年にしたいです。そのためにも、日々のトレーニングでは苦手な課題にも積極的に取り組んでいます。これまで苦手意識のあったプライオメトリックスなどで強化し、走りの効率性を高められる動作を習得したいと考えています。また、私一人の知識や経験には限りがあるため、監督とのコミュニケーションを大切に、多くの指導を仰ぐつもりです。監督だけでなく、互いに切磋琢磨し合える仲間や、日々の生活を支えてくれる家族から多くの力を貰っています。この感謝の気持ちを、しっかりと「記録」という結果で恩返ししていきたいです。

これからの目標は、800mと400mを両立して競技を続けていくことです。800m一本に絞ることも考えましたが、この2種目を高いレベルで両立している選手は少ないため、あえてそこにチャレンジすることに踏み切りました。そしてどのように走れば両立できるのか、自分なりのスタイルを研究していく楽しみも増えました。大学陸上の集大成となるラストシーズンは、最後まで納得のいく走りができるよう、全力を尽くして頑張ります。



800m 県記録誕生

(東海学園大学 盛 耕太郎)

2025年(令7)に更新された愛知県記録

<最高記録のみ>

一般男子

800m	1.48.15	盛 耕太朗 (東海学園大)	85 愛知選手権 瑞穂北 [2025.07.12]
3000m	7.44.45	鈴木 芽吹 (トヨタ自動車)	2025 セイコーゴールデンランプリ 国立 [2025.05.18]
10000m	27.05.92	鈴木 芽吹 (トヨタ自動車)	八王子ロングディスタンス八王子 [2025.11.22]
15Km	42.08	太田 智樹 (トヨタ自動車)	丸亀ハーフマラソン (途中) 丸亀 [2025.02.02]
20Km	56.26	太田 智樹 (トヨタ自動車)	丸亀ハーフマラソン (途中) 丸亀 [2025.02.02]
ハーフマラソン	59.27	太田 智樹 (トヨタ自動車)	丸亀ハーフマラソン 丸亀 [2025.02.02]
25Km	1.14.02	小山 裕太 (トーエネック)	大阪マラソン (途中) 大阪 [2025.02.24]
30Km	1.28.57	小山 裕太 (トーエネック)	大阪マラソン (途中) 大阪 [2025.02.24]
5KmW	19.09	山西 利和 (愛知製鋼)	日本選手権 20KmW (途中) 六甲 [2025.02.16]
5KmW	19.09	丸尾 知司 (愛知製鋼)	日本選手権 20KmW (途中) 六甲 [2025.02.16]
10KmW	38.21	山西 利和 (愛知製鋼)	日本選手権 20KmW (途中) 六甲 [2025.02.16]
10KmW	38.21	丸尾 知司 (愛知製鋼)	日本選手権 20KmW (途中) 六甲 [2025.02.16]
20KmW	1.16.10(世界新)	山西 利和 (愛知製鋼)	日本選手権 20KmW 六甲 [2025.02.16]
ハーフマラソンW*	1.35.11	永山 大志 (至学館大)	高島競歩 高島 [2025.10.26]
円盤投	64.48(日本新)	湯上 剛輝 (トヨタ自動車)	オクラホマ・スロー・シリーズ オクラホマ [2025.04.26]

一般女子

400mH	58.77	和佐田真広 (中京大)	78 西日本学生対校 西京極 [2025.09.14]
ハーフマラソンW*	1.57.36	柴田 葵 (愛知陸協)	高島競歩 高島 [2025.10.26]

一般・U20 高校女子 チーム単独

4 × 100mR	45.12	中京大中京高	(単独チーム・U20 記録も) (八代 理衣・三輪 琉姫 布施 一葉・坂本 茜)
			第 78 回全国高校対校選手権大会 広島広域公園 [2025.07.27]

高校男子

800m	1.49.27	鈴木 太智 (中京大中京)	第 78 回全国高校対校選手権大会 広島広域公園 [2025.07.28]
1000m	2.28.49	石沢 聖成 (中京大中京)	U16 陸上 伊勢 [2025.10.18]
3000mW	12.12.74	田島 湊 (愛知)	U18 陸上 伊勢 [2025.10.17]
ハンマー投	66.60	白木 康介 (修文学院)	第 5 回 GKU 競技会 岐阜協立大 [2025.03.22]

U20・高校男子

1500m	3.45.50	鈴木 太智 (中京大中京)	第 78 回全国高校対校選手権大会 広島広域公園 [2025.07.25]
-------	---------	---------------	---------------------------------------

中学男子

150m	16.26 (0.8)	櫻井凜太郎 (TSM)	U16 陸上 伊勢 [2025.10.17]
110mH	13.78 (1.4)	高橋 叶真 (成岩 SC)	県中学総体 瑞穂北 [2025.07.26]
110mJH	14.09 (1.9)	高橋 叶真 (成岩 SC)	56 回 U16 競技会 伊勢 [2025.10.19]
三段跳	13.43 (1.4)	後藤 翔太 (北山)	⑤高松市記録会 屋島 [2025.03.22]

中学女子

400m	56.45	間瀬 咲良 (安城 JY)	中京大チャレンジ 中京大 [2025.05.31]
1000m	2.50.32	羽田野晴加 (羽田)	U16 陸上 伊勢 [2025.10.18]
三段跳	12.51 (1.2)	祖父江由佳 (守山東)	県ジュニアオリンピック 瑞穂北 [2025.08.30]

小学 1～3 年男子

50m*	8.02 (0.1)	秋山 凌駕 (トライル AC)	県小学生選手権 半田 [2025.10.18]
------	------------	-----------------	-------------------------

小学 4 年男子

4 年 50m	6.95 (0.8)	伊藤 煌生 (トライル ACjr)	県小学生選手権 半田 [2025.10.18]
---------	------------	-------------------	-------------------------

小学 6 年男子

6 年コンバインドB 2582		赤司 剛 (SET Project)	
走幅跳	5.53 (1.4)	ジャベリックボール	59.05
		県小学生リレー	瑞穂北 [2025.06.21]

小学 1～3 年女子

50m*	8.10 (0.1)	高橋 俐子 (なご陸 jr)	県小学生選手権 半田 [2025.10.18]
------	------------	----------------	-------------------------

小学4年女子

4年走高跳 1.26 平塚 咲羽 (豊橋陸上クラブ)
県小学生選手権 半田 [2025.10.18]

4年ジャベリックボール投 39.41 杉浦未梨依 (トライル ACjr)
県小学生リレー 瑞穂北 [2025.06.21]

小学5年女子

5年コンバインドA 1915 三宅 星奈 (TSM 岡崎)
80mH 14.06 (-1.8) - 走高跳 1.25
県小学生リレー 瑞穂北 [2025.06.21]

小学6年女子

6年ジャベリックボール投 51.62 村手 美月 (大須 AC)
②名古屋地区小学生春季 美浜 [2025.05.25]

6年コンバインドB 2062 野崎 心美 (愛知陸協)
走幅跳 4.44 (-0.6) - ジャベリックボール 48.46
全国小学生交流 日産スタジアム [2025.11.02]

(*新種目)

- ①男女のハーフマラソンWは2025年初めて実施、アジア大会リハーサルはハーフマラソンで実施の予定のようです。
②小学1～3年の50m、ミニジャベリック、名古屋地区は県小学生選手権参加者のみ登録のため地区陸協大会は公認としない。

(記録・情報処理委員会)

- ⑤ 各専門委員会からの報告
⑥ 各関係団体からの報告
⑦ その他

(森浦 朗)

栄章

おめでとうございます

令和7年度日本陸上競技連盟秩父宮章
伊藤 明久 谷寄 好美

令和7年度愛知県スポーツ協会表彰

- ・功労賞
黒田 昭夫 安田 純久
- ・世界記録樹立
山西 利和
- ・国際大会入賞
石田 考正 湯上 剛輝
- ・日本選手権大会等優勝
小川 大輝 山西 利和
- ・日本記録樹立
山西 利和 湯上 剛輝 鈴木 芽吹

(森浦 朗)

理事会等会議報告

○11月理事会 令和7年11月26日(水) 県教育会館

1. 協議事項

- ① 全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝選手選考について
- ② 各種栄章候補者について
- ③ 愛知県スポーツ協会被表彰者について
- ④ 審判員昇格候補者について
- ⑤ その他

2. 報告事項

- ① 令和8年度日本陸連主要競技会について
- ② 各種大会結果報告
- ③ 各専門委員会報告
- ④ 地域陸協・協力団体より
- ⑤ その他

○1月理事会 令和8年1月20日(火) 県教育会館

1. 協議事項

- ① 令和8年度年間競技日程について
- ② 競技会参加料について
- ③ その他

2. 報告事項

- ① アジア・アジアパラ大会について
- ② マラソンフェスティバルについて
- ③ 読売・犬山ハーフマラソンについて
- ④ 穂の国・豊橋ハーフマラソンについて

おくやみ

長年にわたり本県の陸上競技発展のため、多大なるご尽力をいただきました、次の方がお亡くなりになりました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	逝去年月	地区名
國分 一郎	令和7.11	名古屋 名誉副会長(平23.4～)
竹内 伸也	令和8.1	名古屋 名誉副会長(平14.4～16.2)
岩瀬 金道	令和8.1	東三河

編集後記

多忙な中、寄稿して下さった方々に感謝します。いよいよアジア・アジアパラ大会の年となりました。6月の日本選手権に愛知ゆかりの選手が多く出場し、アジア・アジアパラ大会に日本の代表として参加してくれることを願います。2027年MGCの開催も決定しました。愛知陸協一丸となって全国からの大きな期待に応えましょう。

編集委員

小川真一郎	赤尾 和雄	竹前 正直	茶谷 和彦
新見 精三	秦 聖喜	兵藤 重二	山下ゆかり